

# 12 詩2 詩を味わう

組	
番号	
氏名	

1 次の詩を読んで問いに答えなさい。

月夜の浜辺

中原中也

- 1 月夜の晩に、ボタンが一つ
- 2 波打際に、落ちてゐた。
- 3 それを拾つて、役立てようと
- 4 僕は思ったわけでもないが
- 5 なぜだかそれを捨てるに忍びず
- 6 僕はそれを、袂たもとに入れた。
- 7 月夜の晩に、ボタンが一つ
- 8 波打際に、落ちてゐた。
- 9 それを拾つて、役立てようと
- 10 僕は思ったわけでもないが
- 11 月に向つてそれは抛はれず
- 12 浪に向つてそれは抛はれず
- 13 僕はそれを、袂たもとに入れた。
- 14 月夜の晩に、拾つたボタンは
- 15 指先に沁しみ、心に沁しみだ。
- 16 月夜の晩に、拾つたボタンは
- 17 どうしてそれが、捨てられようか？

\* 袂たもと：和服の袖の下方の、袋のようになった部分。

※数字は行番号を表す

① この詩の種類を、語群の言葉を参考にして答えなさい。

口語      文語      定型詩      自由詩

② 1・2行目と7・8行目に用いられている表現上の技法を答えなさい。

③ 11行目と12行目に用いられている表現上の技法を答えなさい。

④ 17行目に用いられている表現上の技法を答えなさい。

⑤ なぜだかそれを捨てるに忍びずとありますが、

ア これと同じ意味を表している行を番号で答えなさい。

イ その理由を述べている行を番号で答えなさい。